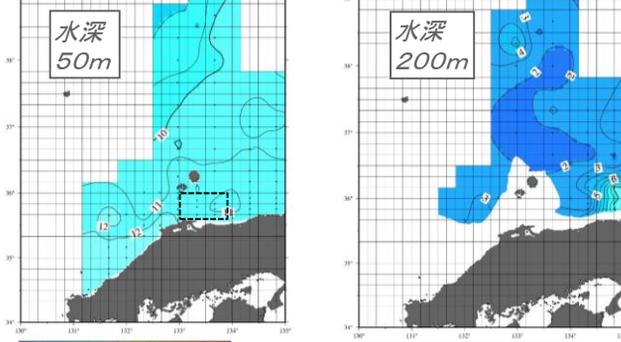


隠岐海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の平均水温は12.2°Cを示しています。  
【前年差:-0.99°C、平年(直近30年)差:-0.87°C】

平均水温は12.1°Cを示しています。  
【前年差:-0.86°C、平年(直近30年)差:-1.13°C】



平均水温は12.5°Cを示しています。  
【前年差:-1.16°C、平年(直近30年)差:-0.99°C】

水深200mの水温は平年よりやや低めでした。

### 3月上旬の水塊配置と対馬暖流

鳥根沖冷水 隠岐諸島北方 山陰・若狭沖冷水

鳥根沖冷水域	鳥根県沖のN36°以北に冷水域が認められました。
隠岐諸島北方の冷水域	N36°20'以北に認められる
山陰・若狭沖冷水域	鳥取県東部沖N36°20'以北に冷水域が認められました。
対馬暖流の流路	主流の一部が隠岐諸島北方冷水域および山陰・若狭沖冷水域に沿って流れると考えられます。

## 水産試験場

### 令和6年度第2回境港地区漁況連絡会議

3月18日(火)県営境港水産物卸売市場において、境港地区の水産関係者を対象に、海洋環境及び沖合漁業で漁獲される主要な魚種の資源・漁獲状況・今後の見通しについて説明する会議を行いました。その概要は以下のとおりです。

- 4月上旬の海況見通し
- 鳥取県沿岸部における表層の水温は11.7°Cを示し、前年より低めに推移する(前年差-2.3°C)
- 鳥根沖冷水は鳥根県沖N36°以北、山陰・若狭沖冷水は鳥取・兵庫県沖N36°30'以北に存在する
- 鳥取県沖全域における対馬暖流の流路は山陰・若狭沖冷水に沿って東方向へ流れ、前年より離岸する

### 漁況見通し

魚種	予報期間	コメント
浮魚類	スルメイカ	近年同様低調となり、前年並みか平年を下回る。
	マイワシ	3~6月 平年を上回る(資源量は増加傾向。2023年の加入量が近年の中で高水準。今年、2024年級群(1歳魚)の漁獲も確認されている)。
	マサバ	4~6月 平年を上回る(資源量は2020年以降、回復傾向。前年冬から1歳魚、2歳魚に相当するサイズ主体の漁況が好調)。
	マアジ	4~6月 平年を下回る(2023年の加入量が低水準。今年、2024年級群(1歳魚)に相当するサイズ主体の漁況が低調に推移している)。
底魚類	松葉がに	2024年漁期 前年並みの漁獲量となる見込み(2025年2月末で前年比88%の漁獲量)。大型サイズ(甲幅12cm以上)の割合が近年減少しているが(前漁期49%→今漁期43%)、単価は高値を維持している。
	親がに	2024年漁期結果 前年より増加(前年比129%)。資源は回復傾向にある。
	若松葉	2024年漁期結果 前年より増加(前年比121%)。資源状況は向上しているが、漁獲規制の強化により漁獲が抑えられている状況。
	ズワイガニ合計	2024年漁期予測 前年並みの漁獲量となる見込み(2025年2月末で前年比110%の漁獲量)。若松葉の資源の増加により、来漁期以降、松葉がにの資源回復が期待できるが、再び不安定な資源動向になることが予想されており、先を見据えた資源管理が必要。
	ハタハタ	前年並みで平年を大きく下回る。
	アカガレイ	前年、前年並み。
	ソウハチ	2024年予測 前年並みで平年を下回る。
	ヘニズワイガニ	2024年予測 隠岐西方・浜田西、大和堆の海域では漁獲サイズを中心に資源は回復傾向。一方で、新隠岐堆の資源は厳しい状況。2025年漁期からTAC管理が導入される予定。TACはSH会議、水政審を経て決定される。現在と同様にIQ管理が行われる。

(一社)漁業情報サービスセンター 水産関係者との意見交換会  
上記の会議と併せて(一社)漁業情報サービスセンター主催の水産関係者との意見交換会も開催され、(国研)水産研究・教育機構 浮魚第4グループ 榎本めぐみ 研究員による「魚の経験した環境を調べる手法の紹介」、(一社)漁業情報サービスセンター 水産情報部 源浩輔 技師による「近年の海況とマイワシ・マサバ・マアジの来遊状況」についての発表があり、参加者との意見交換も行われました。

令和6年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様の支援をまいります

## 西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小島2丁目3-17 〒750-1136  
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424  
境港営業所 鳥取県境港市栄町92番地1 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

## 境港水産事務所

### さかいみなど漁港・市場活性化ビジョンが改訂されました!

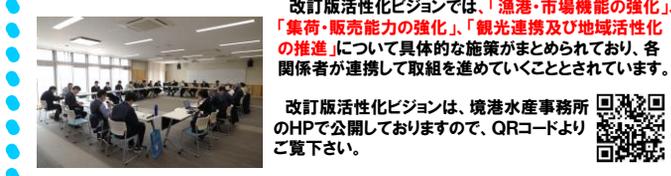
さかいみなど漁港・市場活性化協議会では、「社会に信頼され、活力があり、親しまれる漁港・市場」を将来のあるべき姿として、それを達成するために、平成25年3月に「さかいみなど漁港・市場活性化ビジョン」(活性化ビジョン)を策定し、市場関係者全体で取り組みを進めてきました。

一方で、水産業を取り巻く情勢は日々変化しており、境港漁港・市場においても時代に合わせた具体的な取り組みを定める必要があります。特に、マイワシの資源回復に対応するため、陸上処理能力の向上対策等が課題となっています。

こうした背景を踏まえ、今後の課題と必要な方向性を議論し、令和7年3月に12年ぶりとなる活性化ビジョンの改訂を行いました。

改訂版活性化ビジョンでは、「漁港・市場機能の強化」、「集荷・販売能力の強化」、「観光連携及び地域活性化の推進」について具体的な施策がまとめられており、各関係者が連携して取組を進めていくこととされています。

改訂版活性化ビジョンは、境港水産事務所のHPで公開しておりますので、QRコードよりご覧下さい。



## 栽培漁業センター

### 美保湾の漁場環境調査を実施しました!

美保湾で養殖されているギンザケは、冬の荒波にもまれて、4月の水揚げを目前に控え、1.5~2kg程度にまで成長しています。現在、20基を超える生簀で生産されていますが、こうした養殖場を取り巻く環境にもSDGsの考え方が強く求められています。そのため、養殖事業者は、飼育環境の維持・改善のために養殖場周辺海域の水質、底質及び飼育生物に係る調査を定期的実施しています。栽培漁業センターは、養殖衛生管理指導の他、調査方法等に関する指導を行い、環境に配慮した養殖事業を官民協働で推進しています。

- 養殖衛生指導**  
健康状態の観察や状況に応じた疾病予防や被害軽減策を指導。
- 水質・底質調査**  
探泥器で底泥を採取。生簀周辺底泥の硫化物量等を調査。
- 底生生物調査**  
底泥には棘皮動物や多毛類がしっかりと棲息して鱈!

(参考)農林水産大臣が定めた「持続的な養殖生産の確保を図るための基本方針」に定められた改善目標(水質DOが5.7mg/Lを上回っていること、(底質)ゴカイ等の多毛類やこれに類する底生生物が生息していること、(飼育生物)連鎖球菌・白点虫による死亡が増加傾向にないこと)。

## 潮に夢を

# 共和水産株式会社

代表取締役 橋津 寛

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地  
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530